

ショートコメント vol.347 (2024年12月24日)

テーマ：半導体製造装置の動向に翻弄される対中輸出
～実需と乖離した動きが輸出全体を左右～

●中国向け輸出の動き

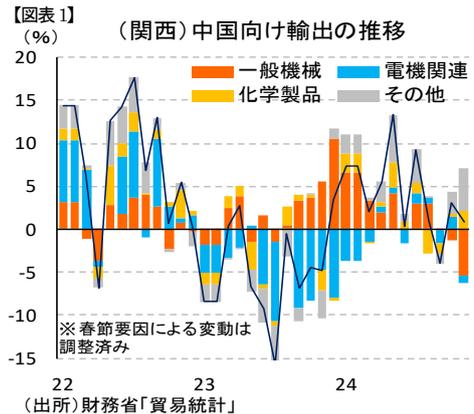
中国向け輸出の動きが、半導体製造装置の動向に左右される状況が続いている。

近年の中国向け輸出の大きな変動要因は「一般機械」であるが、この大半を占めるのが半導体製造装置である。少し前までは半導体製造装置の輸出が大きく増え、全体を押し上げる形となっていたが、足元では前年を大きく下回り、輸出全体の動きも押し下げている(図表1)。

もともと中国への半導体製造装置の輸出については、実需に支えられたものではなく、どちらかといえば政治的な要素が大きい。

というのも、足元は米国による中国向けの半導体製造装置(高性能品)の禁輸が行われ、日本も足並みをそろえている。そうした中で、対象から外れた汎用品に対する需要が、急激に増えていることが指摘されている。

こうした動きに輸出全体が翻弄されているのが現状であり、いわば中国の景気動向とは乖離した動きにつながっている。



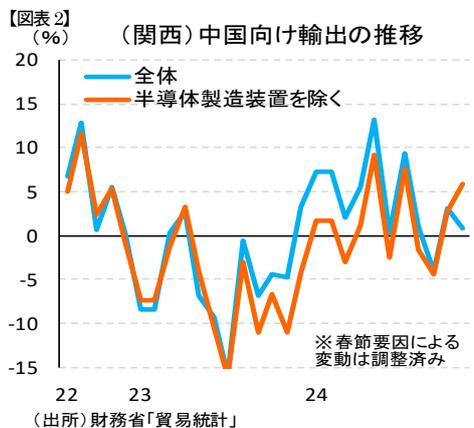
●中国の実需は鈍い動き

中国向けの輸出につき、全体の動きと、半導体製造装置を除いた動きを比べると、23年後半を中心に、トレンドの乖離がみられる(図表2)。

半導体製造装置の動きによる影響の大きさが分かるが、中国の正味の需要動向や景気の基調を見定める上では、半導体製造装置を除いたトレンドが重要であることはいうまでもない。

その点でいえば、2024年は前年を下回る月が少なくないほか、プラスとなった月も1けた台の増加率にとどまるなど、足元の中国景気の鈍化を反映した動きとなっている。

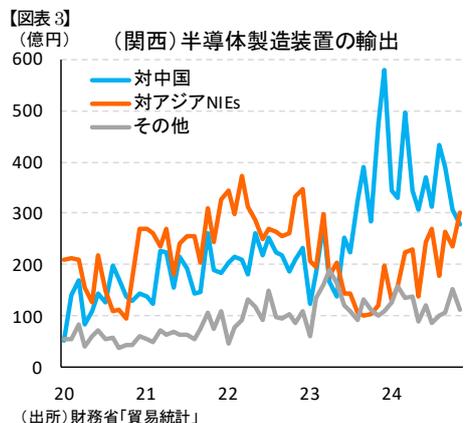
今後、米国でトランプ大統領による輸入関税の引上げが控えているだけに、今後はさらなる悪化への警戒が求められよう。



●半導体製造装置の輸出動向

一方、半導体製造装置の輸出動向については、図表3のとおりとなっている。かつてはアジアNIEs向け(韓国、台湾等)が中心であったが、23年以降は中国向けが逆転し、24年にかけて中国向けの増加が続いた。

それが直近では中国向けがやや鈍化し、アジアNIEs向けを下



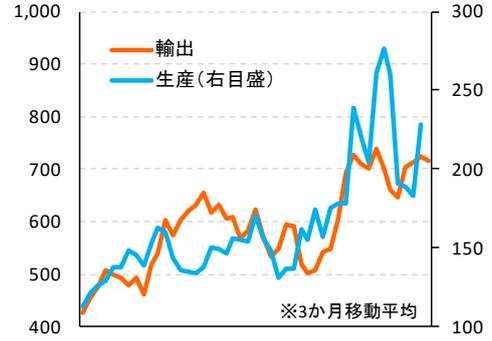
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

回る形となっている。

今後はさらなる減少が進むのか否か、現時点では判断が難しいものの、仮に、中国向けの半導体製造装置の輸出が一服したとすれば、生産面への影響を経て、関西企業の業績にも何らかの影響が懸念される（図表 4）。ただし、半導体製造装置の動きは元々月ごとの変化が激しいことから、来月に大きく増える可能性も否定できない。

本来、来年1月のトランプ大統領の就任後、規制が強化されることを見越して、どちらかといえば駆け込みの受注が増えてもおかしくないタイミングである。それだけに、今後数か月は目が離せない状況が続くといえよう。

【図表 4】(関西)半導体製造装置の生産・輸出
(億円) (2020年=100)



(出所)財務省「貿易統計」、経済産業省「鉱工業生産」

本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。